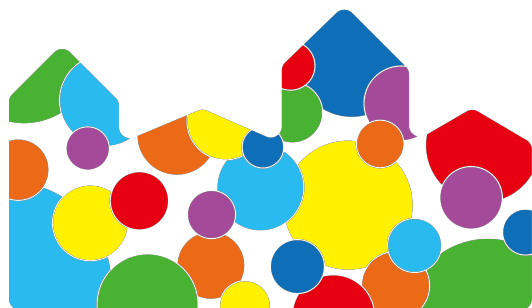




Burano

アニュアルレポート

第3期

2019年4月～2020年3月

一般社団法人Burano

いつも大変お世話になっています。
これまでたくさんのご支援をいただき、Buranoもなんとか4期目に突入いたしました。

まだ胸を張ってご報告できるほどの実績とは言えないかもしれませんが、
様々なサポートをいただいているみなさまに、少しでもBuranoが行ってきた活動の報告を
できればと考え、初めてのアニュアルレポートを作成いたしました。

第3期は、Buranoを必要する子どもたち、家族が少しずつ増え、
本当に必要な支援はなんだろうかと日々考えながら、
制度を超えて、家族に寄り添うことができた1年だったと感じています。

一方で、組織が抱える課題、地域社会が抱える課題、様々な課題に直面し、
改めて何ができるのか、どんな支援を広げていけばいいのだろうかを考える1年でもありま
した。

また資料には、中長期の方向についても少し触れさせていただいています。

拙い資料となり大変恐縮ですが、ぜひご一読くだされば幸いです。

statement

お母さんにとって命よりも大切な子ども。

だからお母さんはいつも、子どものためにがんばりすぎてしまいます。

自分の気持ちを抑え込んで子どものために尽くす。

そこにあるのは愛そのものです。

でも、と、私たちは思うのです。

お母さんにだって子育て以外の時間が必要です。

子どものことは信頼できる人に任せて、
育児以外の人生もちゃんと楽しんでほしいと。

だから私たちは創ることにしました。

子どもを安心して預けられる場所と
お母さんが仕事や遊びに欲張りになれる場所を。

ブラーボ、ブラーノ。

歓喜の声が聞こえる場所を私たちは創ります。



Buranoは、障害児の親たちで立ち上げた場所です。

vision

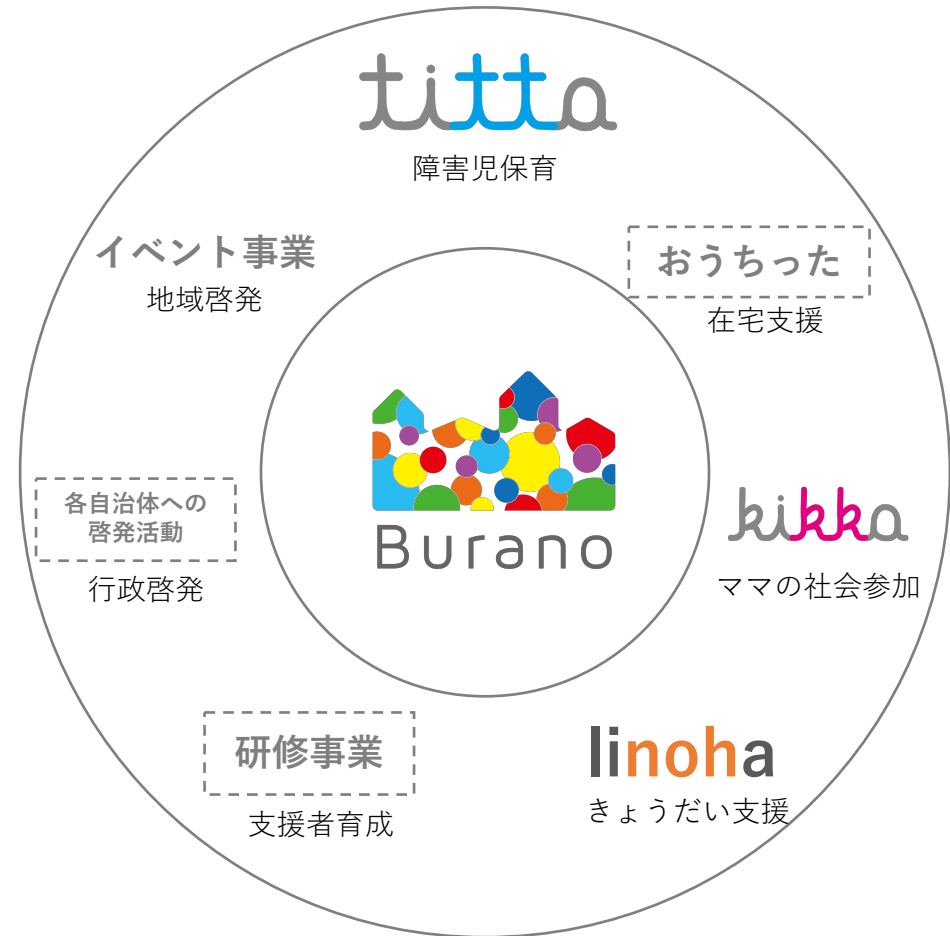
一人ひとりの個性が輝く
カラフルな社会をつくる

一人ひとりの個性が受け入れられる。そして個性の掛け合わせで生まれる彩り豊かな社会をつくるために、Buranoは前進します。

mission

社会問題の解決者として
先例であり続ける

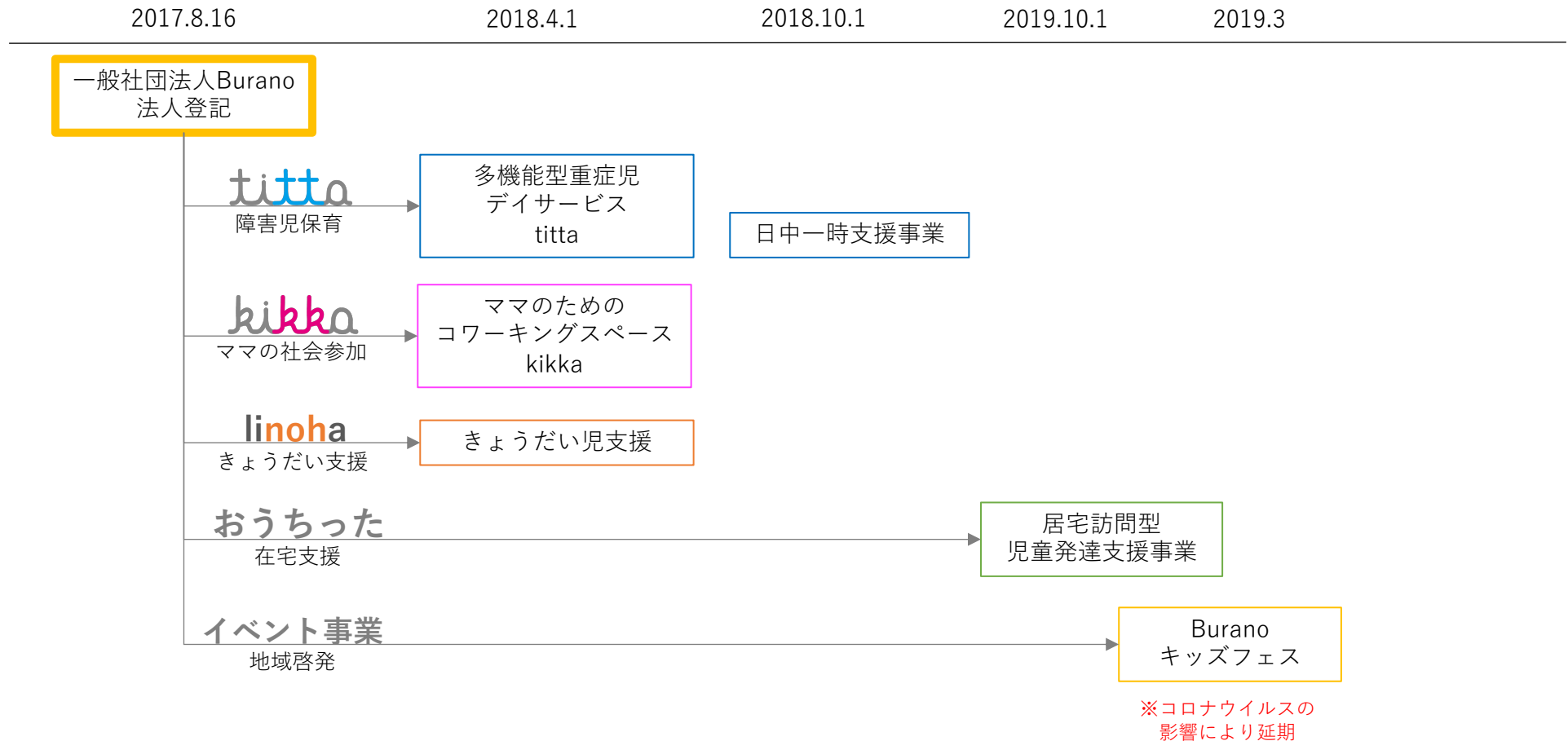
社会にある様々な問題に対して、Buranoが新たな解決策を提示し先例となること。その取組が社会をかえるきっかけとなると信じ、挑戦し続けます。



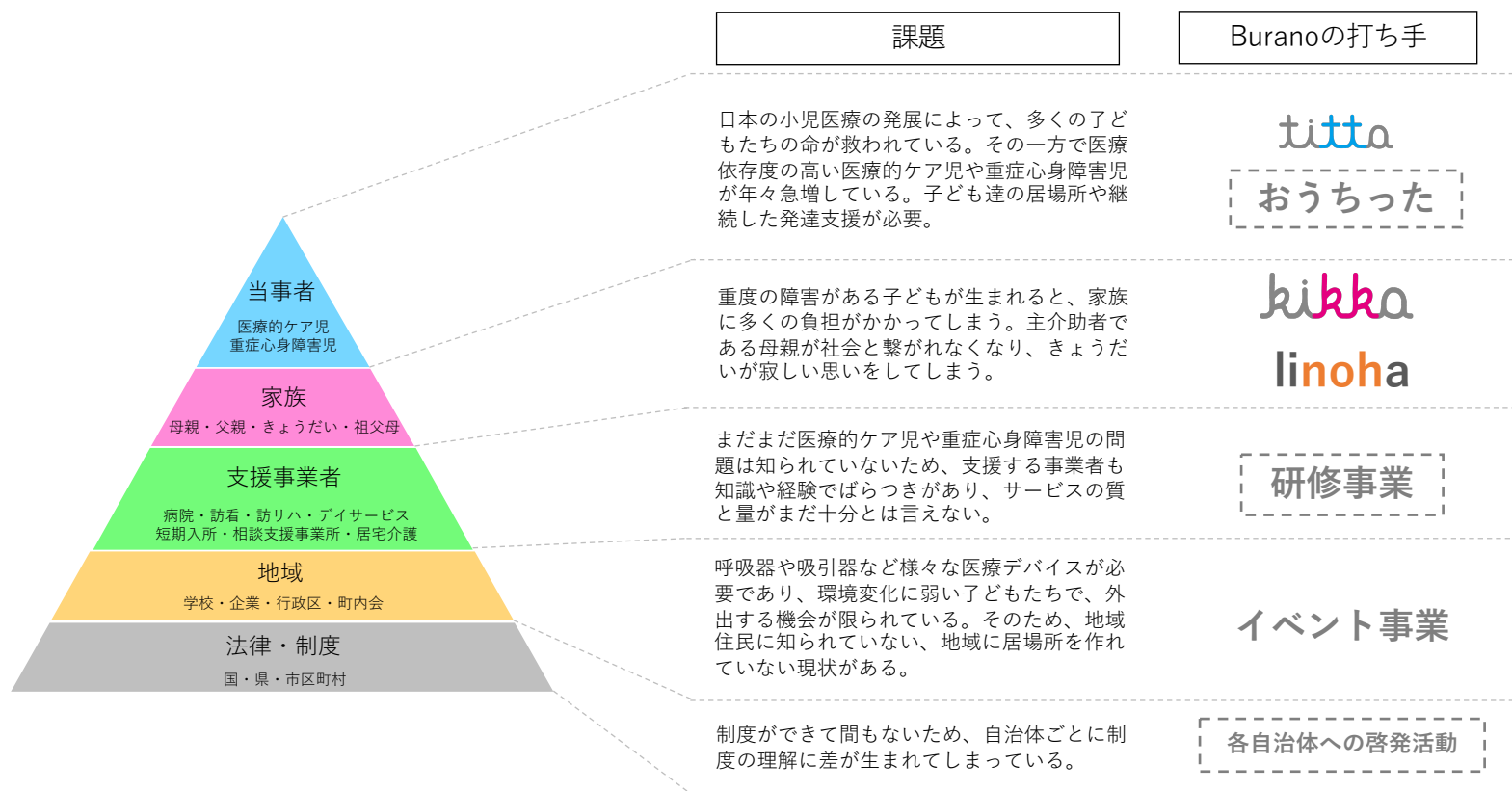
これまでの歩み



利用者家族のニーズに合わせて、事業領域を拡大。現在は5つの事業を展開。



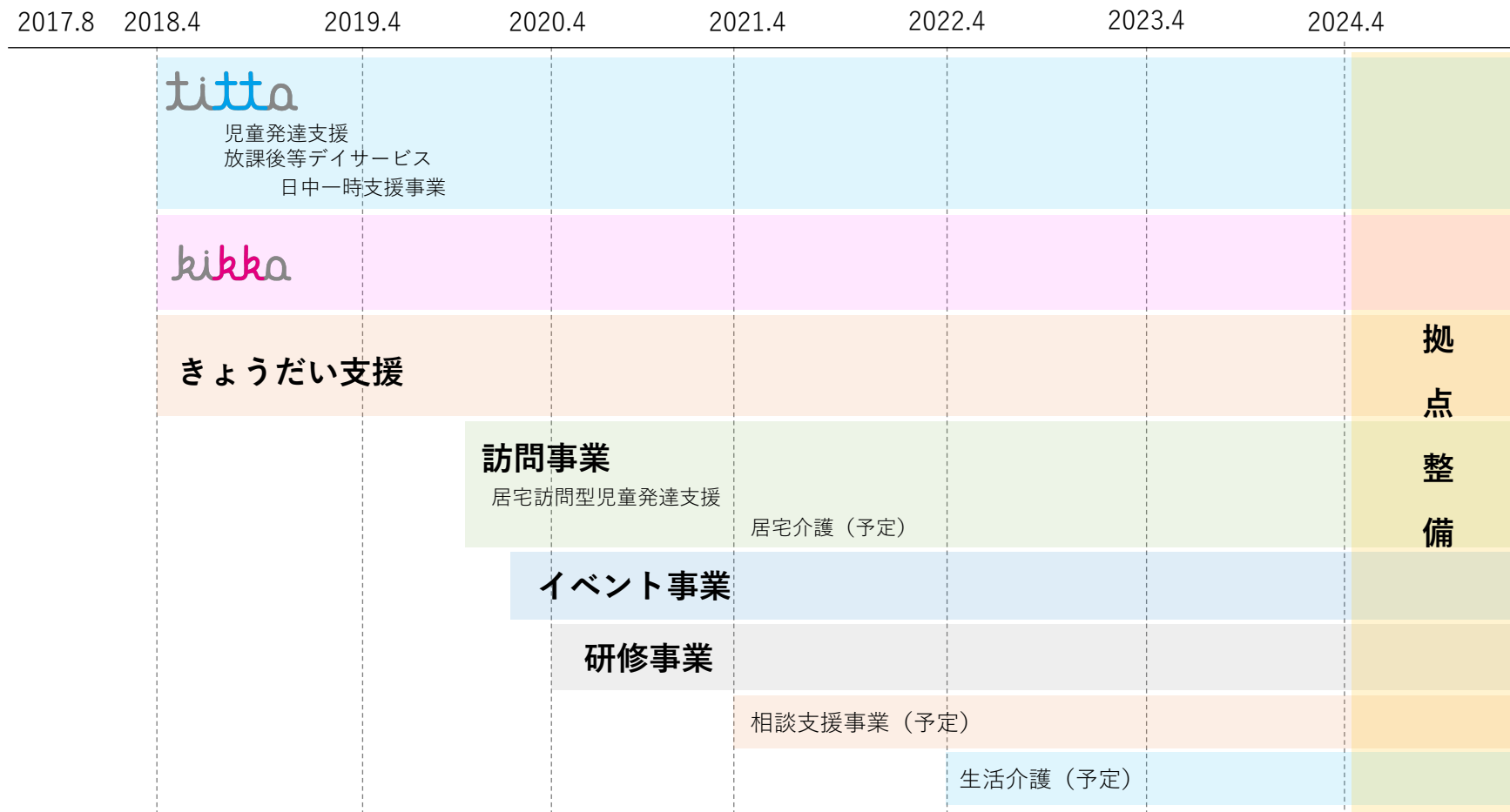
当事者とその家族が「自分らしく」いられる社会をつくるために横断的に事業を展開していきます。



中長期の方針



横断的に事業展開を行いながら、2024年を目標に災害時の避難にも対応できる居場所作りを目指します。



第3期振り返り



五感を使う様々な遊びを通じて、発達支援を行っています。

titta

■事業概要多機能型重症児デイサービス titta

医療的ケアや重度の障害がある子供たちのための通所支援事業。児童発達支援管理責任者・看護師・保育士・理学療法士等が連携し、子供たちの発達を支援しています。

- 定員： 5名
営業時間： 9:30～17:00
対象者： 医療的ケア児や重症心身障害児（0歳～18歳まで）
制度：
・児童発達支援事業
・放課後等デイサービス
・日中一時支援事業

※重症心身障害児とは
重度と肢体不自由と重度の知的障害がある子ども



964名

遊びに来てくれた
子どもたちの延数

279日

tittaの1年間の
営業日数

10

子どもたちの
居住自治体数

3歳～17歳の子どもたち23名が遊びに来てくれました。呼吸器をつけている子どもは3名、医療的ケアが必要な子どもは17名。体調変化による入院、成長に合わせて手術の必要が生じたために入院するなど子どもたちにとって入院は身近で、年間を通じて安定して利用することは難しい子ども達です。

子どもたちがいつでも遊びにこれるよう、月曜日から土曜日まで営業し、年間279日、サービスを提供していました。特に土曜日は、きょうだいなど家族の行事がぶつかることも多く、休日や大型連休の利用は特に必要とされています。

まだ子どもたちの居場所が地域に少ないため、tittaには、6市4町と合わせて10の自治体から通ってくれています。自治体ごとに制度の解釈、サービス内容に差があるため、各自治体に対しても啓発活動を行いながら、できる限り同じサービスが受けられるように働きかけています。

第3期振り返り ママのためのコワーキングスペース（キッカ）



kikka

■事業概要ママのためのコワーキングスペース kikka

結婚や出産、育児をきっかけに多くの女性が離職しています。育児や家事と両立させながら、時間と場所の制約を超えて、希望する形で働くことができる「クラウドソーシング」を通じた在宅ワーク事業を行っています。

営業時間： 10:00～17:00

対象者： 子育て中のママ、パパ

11名

働くママの人数

障害児のママを中心に現在11名が働いています。Buranoに通っているママに加えて、東京や千葉で医療的ケア児の子育てをしているママもリモートで働いています。またZOOMやChatworkを利用してオンラインでママ同士がコミュニケーションをとり仕事を進めています。

220万

kikkaの
1年間の売上

第3期は約220万円の売上を計上しました。これまで様々な事情で働くことができていなかったママたちが毎月少しずつ仕事を学びながら、コツコツとBuranoや在宅で積み上げてきた成果が出始めています。

8

取引企業数

ランサーズ株式会社様や慶應義塾大学様を中心に、インターネット記事の検品やテープ起こしの仕事を発注いただいています。

（取引企業）ランサーズ、慶應義塾大学、フローレンス、Ubdobe、ミラツク、人とまちづくり研究所、日本ファンドレイジング協会、医療介護福祉政策研究フォーラム

linoha

■事業概要 きょうだい支援事業

医療的ケアや重度の障害がある子供のきょうだいを支援する事業です。障害児の急な入院や居場所が限られていることによって、保護者がつきっきりになってしまいうケースが多く、きょうだい寂しい思いをしています。障害がある子のきょうだい同士がつながり合い、前向きに様々なことに楽しめるような居場所を作っています。

営業時間： 9:30～17:00
対象者： 医療的ケア児や重症心身障害児の
きょうだい

12回

実施回数

おはなし会、流しそうめん会、ピザパーティなどこれまでに12回の集まる会を実施しています。きょうだい同士が繋がり、学校以外の居場所を作っています。



おうちった

■事業概要 訪問事業

医療的ケアや重度の障害がある子供たちで通所に通うことが困難な子どもたちのために、お家で発達支援が受けられる訪問型の事業を始めました。全国でもまだ行っている事業所が少なく、茨城県内では2カ所目となります。

営業時間： 9:30～17:00
対象者： 医療的ケア児や重症心身障害児
(0歳～18歳まで)
制度： ・居宅訪問型児童発達支援事業

5

契約児童数

トライアルとして古河市からスタート。市内に在住の5名の子どもたちが利用契約をしています。

第3期振り返り イベント事業 Buranoキッズフェス



事業概要

地域で開催される様々なイベントは障害に対する配慮が十分とはいえません。医療的ケア児や重度の障害児とその家族は、駐車場やトイレ、食事など様々な理由でイベントに参加することが難しく、地域に溶け込む機会が限られています。障害の有無にかかわらずイベントに参加できるインクルーシブなイベントを展開します。

※コロナウイルスにより開催延期となりました。

1400

参加申込人数

40

関係団体様

開催はコロナウイルスの影響によって延期となってしまいましたが、予約ベースで1400名の申込がありました。参加申し込みは市内に限らず、東京、宇都宮など遠方からも希望がありました。

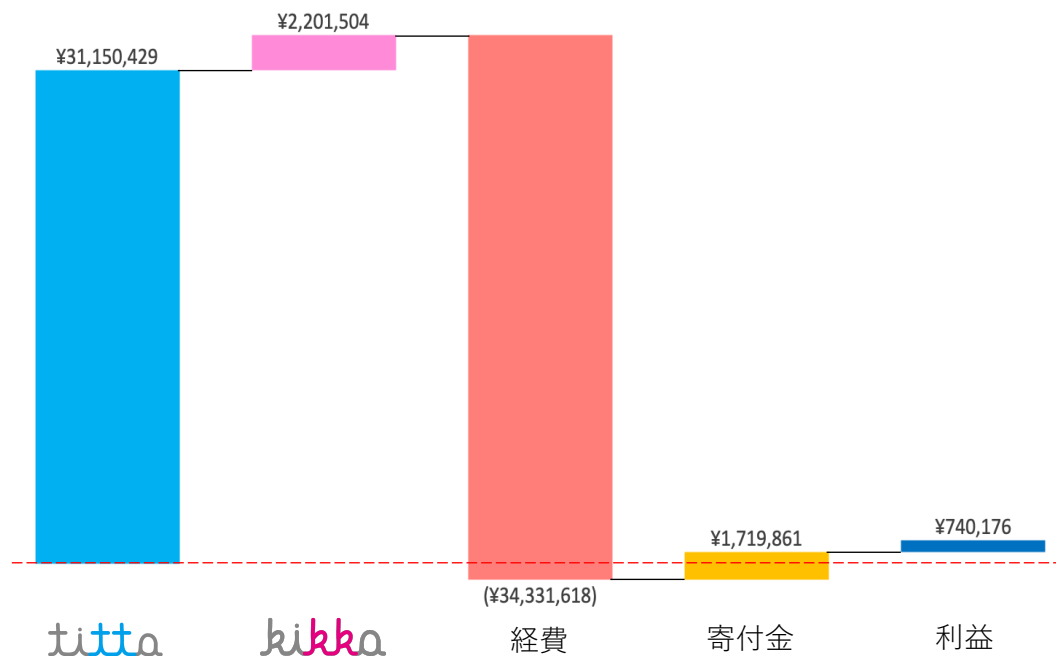
TOOTH FAIRY事業（日本財団様、日本歯科医師会様）を始め、地域の様々な企業、団体より、支援をいただいております。



公益社団法人
日本歯科医師会

第3期収支内訳

事業としてはまだ安定した収益構造とは言えない状況です。



Burano第3期の収支は、利用児の入院が重なり、売上が想定通り伸びなかった点、現場の人員配置をより強化したことで人件費が増加した点、新たな事業としてキッズフェスの開催準備を行なった点から、事業のみでは赤字での着地となりました。

一方で、キッズフェスを通じて様々な方々・企業様にご支援いただいた結果、最終ではなんとか黒字で着地しています。

Buranoが仕掛ける様々な事業は、社会課題解決のためであり、他にやり手がない事業でもあります。制度が追いついておらず収益性の低い、もしくは全く収益が上がらない事業となっており、継続して事業運営を行うためには様々な支援が必要です。

保護者からのお手紙



いつもお世話になってます。

早いもので、もう2年が経とうとしてるのですね。今では伝説(?)となった『titta体操👉👈』がなんだか懐かしいです(笑)

去年は私の病気もあり、本当に助けられました。

T (Buranoを利用するお子様) の事があるので、手術もためらっていたのですが、

『T君のことでお手伝いできることはさせてください!』と連絡をもらった時は有難くて涙が出ました。

日にちや時間を調整してくれたり、送迎もすると行ってくれ、スタッフの皆さんのおかげで手術もでき、私たち家族の支えとなってくれました。今までの施設は、こちらからお願いすることはあっても、ブラーノのように施設の方から手を差しのべてくれる所はありません。困っている時に家族の支えになってくれる…Buranoは 私にとって、そんな素敵なおところです。

Tもtittaは『憩いの場』と思ってるみたいです。家以外では絶対寝ない子なのに、tittaで寝てたと聞いたときはとても驚きました。安心していただける場所が家以外にもあるなんて、こんなに嬉しいことはありません。

スタッフ皆さんのおかげで、私たちの日常が支えられています。子供を安心して預けられる場所というだけでなく、いつも家族に寄り添い、手を差し伸べてくれ、感謝でいっぱいです。助けられてばかりですが、これからもどうぞよろしくお願いします💖👉👈

余談ですが…

まだブラーノができる前は、Tの入退院もあり、施設の利用もあまりしてなかったんですね。次男のYにもなかなか構ってやれず、拗ねてた時期がありまして💧

Yが行きたいと言ってる場所も、Tと一緒にには入れない場所もあったり、『Tのせいで、どこも行けないじゃん』と言われる度に、なんだか申し訳ない気持ちにさせられてたのですが、tittaでTを預かってもらうようになり、Yとの時間も作ってあげられるようになってからは、そんなことも言わなくなりました。

それどころか、Tに対しても『俺が食べさせてあげるよ』とか、『T、俺がついてるからな!』と言ってくれるようになり、拗ねてたYの気持ちに変化がみられるようになりました。そんなこと言ったことなかったんですよ!

本当にありがたいです。

Buranoの皆さんのおかげです!

よろしくお伝えください☆

小学生部門 佳作 みんながあつまる場所

竹内 優菜

私には、しょうがいがあり、自分では動けない妹がいます。家では、ベッドでいっしょにぬいぐるみやおもちゃで遊んでいます。

妹は、ブラーノというしせつに通っています。ブラーノには、しょうがいがある子どもたちが通っていて、はじめに見たときは、少しびっくりしました。なぜかというと、妹とはちがうしょうがいや、びょうきの子たちがいたからです。はじめは、何もできず、声もかけることができませんでした。でも、いっしょに遊んだり、すごす時間がふえてくると、お話できるようになったり、手をにぎったりすることができました。

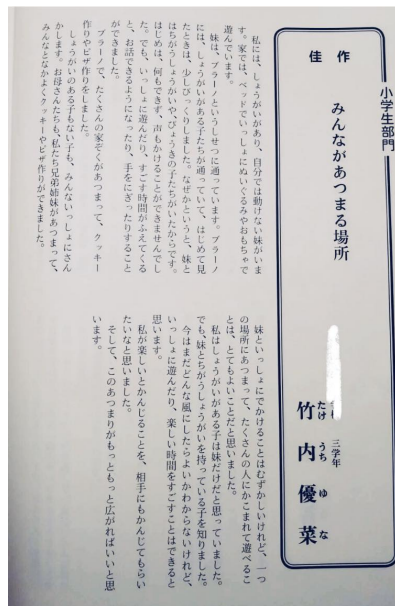
ブラーノで、たくさんのお家ぞくがあつまって、クッキー作りやピザ作りをしました。

しょうがいのある子もない子も、みんないっしょにさんかします。お母さんたちも、私たち兄弟姉妹があつまって、みんなとなかよくクッキーやピザ作りができました。妹といっしょにでかけることはむずかしいけれど、一つの場所にあつまって、たくさんの人にかこまれて遊べることは、とてもよいことだと思います。

今はまだどんな風にしたらよいかわからないけれど、いっしょに遊んだり、楽しい時間をすごすことはできると思います。

私が楽しいとかなじることを、相手にもかんじてもらいたいなと思いました。

そして、このあつまりがもっともつと広がればいいと思います。





人材不足：専門職の採用が困難

重度障害児や医療的ケア児の問題があまり知られておらず、働き場所として認識されていないことから、就業先の候補に上がらない。そのため、資格保有者（看護師・保育士・理学療法士・作業療法士・介護士）の採用が難しい。



収益が上がらない

収益が上がる事業が限られている。また事業も収益性が低いことから、Burano全体の収益が盤石とは言えない。安定・継続した支援が必要な事業となっている。



まだ知られていない

重度障害児が生まれると母親が社会から孤立してしまう点。きょうだいが寂しい思いをしている点。母親が働きたくても働けないといった社会問題がまだまだ知られていない。地域に居場所を作るためには、様々な方々の理解が必要。

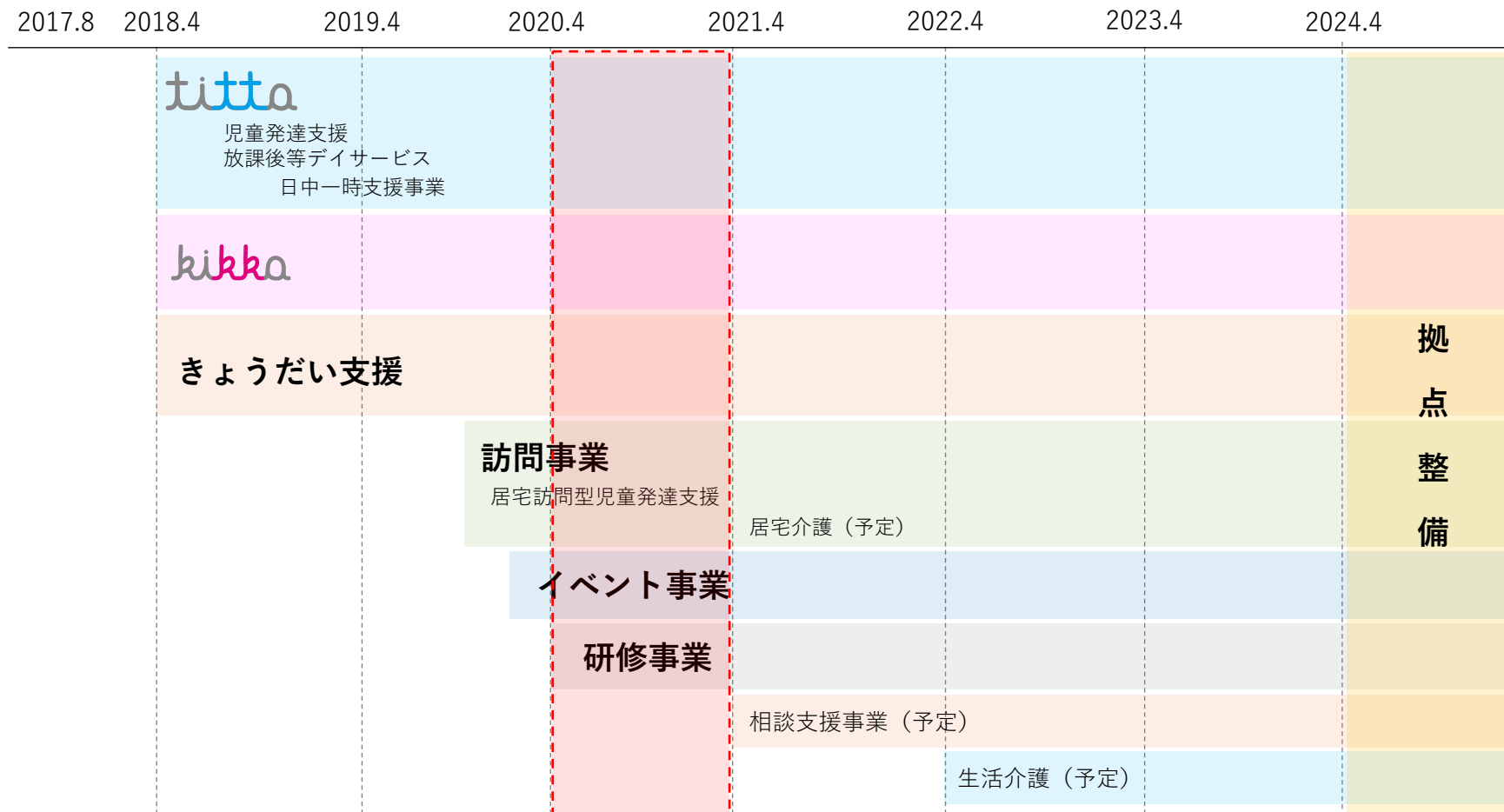
第4期方針



毎年開催しているお餅つき大会。地域の方々も参加しています。

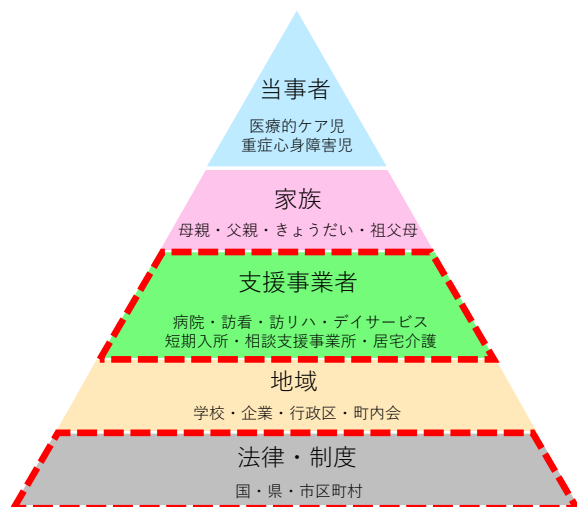
第4期方針

これまでの既存事業を前進させるとともに、開催延期となってしまったイベント事業、地域の支援者育成のための研修事業を予定しています。



第4期方針② 研修事業について

初めてとなる研修事業に関しては、日本財団に支援をいただき、全国の様々な地域で活躍する講師に登壇を依頼する予定です。



課題：

子どもたちや家族を支える支援事業者の方々、法律・制度に関わる地方自治体の方々の知識・理解に差が生まれており、サービスの質・量に地域差が生まれてしまっています。

解決策：

支援事業者や地方自治体の職員が参加できる研修事業を通じて、重度障害児について様々な側面から学ぶ機会をつくり、知識・理解の差が埋まるよう働きかけること。また共に学ぶことで地域を超えた横の繋がりを創出することで、上記課題を解決したいと考えています。

開催時期：年末を予定（コロナウイルスの状況を見て確定）

場所：古河市内（オンラインで参加も可）

概要：合計4日間に講師を10名呼びして研修会を実施予定

Buranoが2017年8月16日にスタートしてからもうすぐ3年が経ちます。

この間、子どもたちは、
たくさんの入退院を繰り返し、大変な手術を乗り越えてきました。
状態が悪くなってしまう、以前できていたことができなくなる子もいます。
その度に、家族は一喜一憂し、なんとか前を向こうと踏ん張ります。

子どもたちには、移動や学習、遊びなど、生活の中にたくさんの制限があります。
体が思うように動かせないこともあります。家庭の中だけでは得られない同年代の友達と
の触れ合いや社会活動があります。

だからこそ、Buranoでは、
子どもたちにはたくさんを経験して欲しいと思っています。
季節の変化を感じ、目で見て、一緒に手を使って、様々な音を耳で聞いて。
そして子どもたちを支える家族にとっても心が安らいだり、楽しい気持ちや前向きになれる
きっかけの場所になって欲しいと思っています。

まだまだ理想とする社会には程遠いのですが、
みなさまにご支援いただきながら、着実に一歩ずつ前に進んでいます。

重度の障害がある子どもたちとその家族が安心できる居場所・地域になれるよう、
今後とも応援をお願いいたします。